



かつお節を食べて交通安全を

～枕崎水産加工組合が協力し交通安全キャンペーン～

秋の全国交通安全運動街頭キャンペーンが9月21日、市、枕崎警察署、交通安全協会など約25名が参加して、鹿児島銀行前道路で行われました。

今回は、かつお節製法伝来300年記念行事を展開している枕崎水産加工組合も参加し、削り節とチラシをバックにして300名のドライバーに配布。300年をPRしながら「安全運転にご協力をお願いします」と呼びかけていました。



枕崎の海・山を子どもたちが大冒険

～少年の森などでアドベンチャーキャンプ～

8月16・17日、少年の森キャンプ場を中心に行われ、小学生29名が参加し、海・山の体験を満喫しました。海の体験では、鹿児島水産高校のカッターに乗船し、水産高校のカッター部員に教えてもらいながら重たいオールを一生懸命こいでいました。

少年の森では国見山登山や昆虫採集、キャンプファイヤーなどをし、自然の壮かさや恵みを体験するとともに、共同生活をおして自主性や協調性を養いました。

参加した池上直哉くん(枕崎小5年)は、「カッターのオールは思ったより重かったけど一人でこげた。きつかったけどとてもいい体験ができた。楽しかった」と話していました。

枕崎の食文化を研究・紹介します

～オーストラリア在住の料理研究家が枕崎を訪問～

シドニーを拠点に日本料理の講師、著作活動など、幅広く活躍中の料理研究家、出倉憲秀さんがこのたび枕崎を訪れ、漁協冷凍加工場、佐多農場、明治蔵などを見学されました。きっかけは、インターネットで黒豚を検索したところ、市内で『鹿籠豚料理』を扱う飲食店のホームページにたどり着き、枕崎の食文化に興味をもったということです。黒豚、ぶえん鯉のブランド化に向けた取り組み、焼酎の歴史や製造工程について説明を受けた出倉さんは、「今回学んだ枕崎の食文化を、自身の料理研究本の中で外国に紹介し普及に貢献できれば」と話していました。

▼明治蔵で説明を受ける出倉さん(右)



健康について深く学びました

～第29回市民健康教室～

市民健康教室が9月15日、市民会館で開催され、健康相談や健康食の展示、救命シミュレーション、心肺蘇生法コンテストのほか、様々な催しが行われました。

恒例の自主講座生による健康体操では、岩崎・田畑・木原の高齢者の方々が、『枕崎! 勝男武士』の軽快なリズムによって踊りを発表しました。また、ウェルフェア九州病院の鯨島秀弥院長により、問題となっている『うつ病』についての講演も行われました。

【心肺蘇生法コンテスト結果】1位:別府小PTA B、2位:立神保育園 A、3位:別府小PTA A(9チーム参加)



風に乗って青空を舞う姿はまるで鳥のよう

～枕崎空港でグライダー体験飛行～

上昇気流を感じて、鳥のように空を飛びたい・そんな夢をかかえてくれるグライダーの飛行会が枕崎空港で行われました。これは、第一工業大学の市川明夫航空宇宙工学学科教授などが、グライダーの魅力を知ってもらい、南九州におけるグライダー活動の足がかりとするため企画されたもの。県外の二つのグライダークラブの協力によりグライダーと、それを上空まで引き上げるためのモーターグライダーを一機ずつ持って行われました。

飛行会は9月8日から21日までの土、日、祝日、延べ7日間実施されました。一般の方の体験搭乗も行われ、県内外から合計39人が参加。遠くは福岡から来られるなど、グライダーの人気の高さがうかがえます。グライダーは枕崎空港周辺の上空約500mを20分かけて飛行。参加者たちは、機体で風を感じながら枕崎の景色を楽しみました。

この体験搭乗に参加した方の中で、なんと、64年ぶりにグライダーに乗ったという方がいらっしゃいました。その方は、鹿児島市在住の野村一丸さん(83)。野村さんは昭和16年から3年間、当時の台北第一師範学校に在籍していたとき、グライダーに乗ったこと。「久しぶりのグライダーにとても満足した。昔と同じように感じた」と、当時のグライダーのことを懐かしそうに語ってくれました。



きれいなコスモス畑をと、ボランティアが汗

～平門交差点付近の国道沿いにコスモスの植え付け～

国道225号線沿い平門交差点付近の畑4,000㎡で9月2日、コスモスの苗植えが行われました。これは、コスモスの花で地域の景観を美しくしようと、地元ボランティアや小・中学生など約170人が参加し行われたもの。昨年までは種をまいていましたが、台風などの影響で、なかなか育たなかったため、今年は山崎巳代治さん(桜山本町)が育てた苗を移植しました。

しかし、コスモスは難しいもので、今度は雨が降らず根付かない。今度こそと、9月29日に再び植え付けを行いました。地域の方や子どもたちが植え付けたコスモス。元気に育ってきれいな花を咲かせてほしいものです。



ライト兄弟の偉大さを実感

～「ライトフライヤー1号機」の復元機で飛行に挑戦

人類初の動力飛行に成功したライト兄弟の「ライトフライヤー1号機」を復元した西日本航空協会(福岡市)が9月22日からの3日間、枕崎空港で飛行に挑みました。

飛行するためには、滑走路に対して真っ直ぐ平行な風が吹くことが条件。風を待ちながら何度も離陸を試みましたが、なかなか条件どおりにはいかず、3日間の挑戦で機体を浮かすことはできませんでした。同会の前田建会長は、「ライトフライヤー1号機は構造上、未完成な機体。修正すれば飛べるがオリジナル性がなくなる」と、この機体での挑戦を断念しました。残念な結果となりましたが、見物に来た人たちに夢を与えてくれました。

